

2. 2023年度 収支予算書

2023年3月

株式会社エヌ・ティ・ティ・データ

2. 2023年度 収支予算書

2023年度の収支予算書を以下に記す(図表1)。

図表1：2023年度収支予算書(認定医療情報等取扱受託事業者)

(百万円、税込)

		2023	細目説明
1	収入	106.9	
1-1	認定事業委託費	106.9	
1-2	その他収入	0	その他の収入については現状見込んでいない

2	支出	509.6	
2-1	人件費 (要員数)	185.5 <u>14</u>	費目:利活用者のニーズに基づき匿名加工医療情報作成等の分析に関わる要員費用
2-2	設備関連維持費用 (要員数)	128.7 <u>4</u>	費目:セキュリティを考慮したシステム・専用線・データセンタ等の利用・保守・運用に関わる費用
2-3	減価償却費	60.1	費目:システム等設備投資に関わる減価償却費
2-4	販売費 (要員数)	115.5 <u>7</u>	費目:医療情報利活用を促進するための営業活動を行う要員費用
2-5	一般管理費	23.1	費目:事業全体管理を行うための各種管理費用

3	収支	-406.0	
4	法人税 ※1	0	
5	税引き後利益 ※2	-406.0	

※1：税率は、30.62%をベースとして算出。

※2：損失については、認定医療情報等取扱受託事業者の他の事業を含めた内部留保による手当てを想定

2023年度の収支計画について、以下に記す。

2-1. 収入計画(図表1 項番1)

※ライフデータイニシアティブ収支予算書と同様

匿名加工医療情報作成事業等の収入については、2022年度の活動成果により医療情報の提供元である医療情報取扱事業者の拡大、医療機関等の研究者、製薬企業等医療関連事業者への積極的な広報活動を踏まえ、販売計画の策定を行っている。

また、併せて2023年度に計画している医療画像情報の提供に関しても利活用者のニーズを踏まえ、次世代医療基盤法の追加申請で承認を得たうえで本格的な事業展開を計画している。

匿名加工医療情報作成事業においては、匿名加工医療情報による個人特定リスクは徹底して回避する必要があることも踏まえ、機微な医療情報を厳格に取扱いながら本認定事業の利活用ユースケースを一つでも多く創出し実績を創り出していく。

また、本事業の強みである電子カルテ情報、DPC調査データ、レセプトデータを組み合わせ、各種レポート、副作用情報などのテキスト情報を活用し、AI技術を取り入れながら先進治療における効果分析、投薬後の副作用情報など高度な分析にもチャレンジしながら事業展開を進める計画である。

このような事業を展開することで、活用ニーズに即した多岐に渡る情報活用やサービスの展開のための取り組みを進め、更なる利活用拡大に向けた分析基盤を築き安定した事業運営を進めていく予定である。

2-2. 支出計画

1) 人件費(図表1 項番2-1)

認定匿名加工医療情報作成事業においては、データ利活用件数に合わせて対応要員の調整が必要と見込まれ、認定医療情報等取扱受託事業者においては要員を分析にシフトさせる計画である。部門別の要員数を以下の通り記す(図表2-8)。

図表2-8：部門別要員数

認定医療情報等取扱 受託事業者	分析	14名(+2)
	保守運用	4名(-1)
	営業、広報対応	7名(±0)
	責任者、管理者	7名(-3)

2) 設備関連維持費用及び減価償却費(図表1 項番2-2、項番2-3)

設備に関しては、データセンタ費用として認定事業を行うシステムを管理する費用を、システム費用としてサーバ等のシステム機器・各種アプリケーション・ネットワーク(専用線)・当該システムの運用保守に関わる費用を、また、セキュリティ費用として、各種セキュリティ対策に関わる機器や第三者審査に関わる費用を見込んでおり、これらについて当該システムを構築する費用を減価償却とし

て、一方でライセンスの維持を含めた継続維持費用を設備関連維持費として見込んでいる。なお、2022年度に発生した「医療情報の不適切な取得事案」で講じた再発防止の対策費用として、2022年度の実施に加えて2023年度も継続対応するためシステム費用およびセキュリティ対策費用については増額する。

今後、データ容量の大幅な増大、あるいは該当年度での緊急のセキュリティ対応等が発生した場合には、本項目の費用を見込み、速やかに対応するものとする。

3) 販売費、一般管理費(図表1 項番2-4、項番2-5)

販売費および管理費については、ほぼ現状維持の計画。今後、更なる利活用案件数の増大が発生した場合には、本項目の費用を見込み、速やかに対応するものとする。

以上